

2022 年度事業報告

1. 第 93 回日本農学大会の開催

4 月 5 日に伊藤国際ホール講堂において 2022 年度 7 名の日本農学賞、読売農学賞受賞者の受賞式・受賞講演を会場参加、オンライン配信で開催した。会場参加 87 名(関係者含む)、オンライン登録者：277 名、視聴者：275 名、同時視聴者：218 名、常に 200 名以上の方が視聴していた。

2. 2022 年度日本農学会シンポジウムの開催

2022 年 10 月 1 日に統一テーマ「カーボンニュートラルの達成にむけた農学研究」を会場参加、オンライン配信で開催した。8 件の講演を行った。会場参加 58 名（関係者含む）、参加登録数が 407 名、視聴者数が 267 名で多くの方々の参加があった。

3. 2021 年度日本農学会シンポジウム講演要旨の「農業および園芸」（養賢堂）への掲載

8 名の講演者の講演要旨を 97 巻 1 号の特集記事として掲載した。

4. その他

- ・(公財) 農学会－2022 年度第 21 回日本農学進歩賞を共催。
- ・アグリビジネス創出フェア、アグロ・イノベーションを後援。
- ・公正研究推進協会(APRIN) 2022 年度全国公正研究推進会議の後援。

2022 年度の会議内容は以下の通り

会議名	開催日	主な議事
総会	第 5 回 2 月 11 日 オンライン会議 10:00～	<p>審議事項：</p> <p>第 1 号議案 2021 年度事業報告 出席会員の異議なく承認された。</p> <p>第 2 号議案 収支決算報告および監査報告 収支決算報告について報告があり、次いで、監事から配布資料に基づき、2021 年度の監査報告が行われ、出席会員の異議なく承認された。</p> <p>第 3 号議案 新規入会承認の件 (公社) 日本木材保存協会から入会申請があり、日本農学会への正会員入会が出席会員の異議なく承認された。</p> <p>第 4 号議案 役員(理事及び監事)選任の件 定款施行規則第 4 章に沿って選挙が行われた。 選挙の結果、理事候補者の中から、大杉新会長候補者理事、大政謙次新副会長候補者理事、渡部終五新副会長候補者理事が選出された。監事候補者は 2 名であったため信任投票となり、佐藤秀一監事、與語靖洋監事が選出された。</p> <p>報告事項：</p> <p>1.2022 年度事業計画 2022 年度の事業計画について報告があった。</p> <p>2.2022 年度収支予算 2022 年度の収支計画について報告があった。</p> <p>3. 2022 年度の日本農学大会について 2022 年度の日本農学大会は 4 月 5 日(火)に開催されること、開催方法は今後検討することが報告された。</p>

		<p>4.2022 年度役員、常任委員および会員（代表者）、運営委員について 2022 年度の役員、常任委員および会員（代表者）、運営委員について報告があった。</p> <p>5 その他</p> <p>1) 読売新聞社との読売農学賞に関する合意事項 議長の求めに応じ、庶務担当常任委員から配布資料に基づき、読売農学賞に関する合意事項について報告があった。</p> <p>2) 学術振興協会-卓越研究成果公開事業の終了について 議長の求めに応じ、庶務担当常任委員から卓越研究成果公開事業の終了について報告があった。</p> <p>6. 日本農学賞受賞者および読売農学賞受賞候補者の決定 日本農学会農学奨励規程（日本農学賞授賞規程）に沿って行われた選考会において 7 名の日本農学賞受賞者が決定された。今回は読売新聞社の編集局科学部長が立ち会いのもと、その場で読売農学賞受賞者も決定された。</p> <p>以下受賞者（推薦学協会）：荒井 克俊（(公社)日本水産学会）、大坪 研一（(一社)日本応用糖質科学会）、小崎 隆（(一社)日本土壌肥科学会）、佐藤 和広（(一社)日本育種学会）、谷 誠（(一社)日本森林学会）、松井 健二（(公社)日本農芸化学会）、村上 章（(公社)農業農村工学会）【五十音順】</p>
理事会	第 22 回 1 月 26 日 WEB(Zoom)会議	<p>審議事項：</p> <p>第 1 号議案 2021 年度事業報告について 全員一致で承認された。</p> <p>第 2 号議案 2021 年度決算報告および監査報告について 全員一致で承認された。</p> <p>第 3 号議案 2022 年度収支予算案の修正について 全員一致で承認された。</p> <p>報告事項</p> <p>1. 次期理事、監事推薦候補者について</p> <p>2. 日本農学賞受賞候補者業績発表者について</p> <p>3. 総会・選考会進行・タイムテーブル・台本について</p> <p>4. 総会資料について</p> <p>5. その他報告事項</p>
	第 23 回 2 月 18 日 みなし決議	<p>2 月 18 日、理事大杉立が理事及び監事の全員に対して、理事会の審議の目的である事項について、上記の内容の提案書を電子媒体および書面にて発送し、当該提案につき 2022 年(令和 4)年 2 月 22 日までに理事の全員から書面により同意する旨の意思表示を、また監事から書面により異議がない旨の意思表示を得た。</p> <p>審議事項：</p> <p>第 1 号議案 代表理事（会長）及び副会長の選定の件 会長：大杉 立、副会長：大政謙次、渡部終五が全員一致で承認された。</p>

理事会	第 24 回 3 月 14 日 WEB(Zoom)会議	<p>審議事項：</p> <p>第 1 号議案 第 93 回(2022 年度)日本農学大会プログラムについて 4 月 5 日 (火) 伊藤国際ホールで会場参加とオンライン配信のハイブリット方式で開催することが全員一致で承認された。</p> <p>第 2 号議案 シンポジウム講演内容・講演者について 園芸学会、日本育種学会、日本草地学会、日本畜産学会、日本木材学会、農村計画学会、復興農学会、日本土壌肥料学会から推薦の 8 名に講演依頼することが全員一致で承認された。</p> <p>第 3 号議案 2023 年総会、2022 年度 (9,12 月) 理事会、企画、運営委員会の日程について 総会：2023 年 2 月 11 日、 理事会、企画委員会、運営委員会 2022 年 9 月 7 日、2022 年 12 月 7 日に決定した。</p> <p>審議事項：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 常任委員の担当割・業務引継ぎ事項 2. その他
	第 25 回 9 月 7 日 WEB(Zoom)会議	<p>審議事項：</p> <p>第 1 号議案 2022 年度シンポジウム講演者・執行部の参加方法について 講演者、理事、監事、常任委員、企画委員は会場参加 (弥生講堂) をすることが全員一致で承認された。</p> <p>第 2 号議案 学術の中長期研究戦略の公募について-分科会の設置に関する検討 今回は、日本学術会議の分科会で取りまとめを行うことになった。今後学術の中長期研究戦略の公募あった場合には日本農学会としてどのように活動していくかなどを検討していくことが全員一致で承認された。</p>

	<p>第 26 回 12 月 7 日 WEB(Zoom)会議</p>	<p>審議事項： 第 1 号議案 2023 年度事業計画（案）について 2023 年 4 月 5 日開催の日本農学大会、同 10 月 7 日のシンポジウムが説明され、全員一致で承認された。 第 2 号議案 2023 年度収支予算（案）について 全員一致で承認された。また、コロナ禍で繰越金が多くなっている旨説明があり、繰越金の取扱いについては今後検討することになった。 第 3 号議案 定款変更について 変更内容について検討し、総会での審議事項とすることが承認された。 第 4 号議案 2023 総会（選考会）議事と開催方法について 2023 年度も総会・選考会は前回同様オンライン開催とすること及び総会議事について全員一致で承認された。 第 5 号議案 2023 年シンポジウムテーマ、話題提供について 2023 年度のシンポジウムテーマは「激動する社会と農学」仮題とし改めて加盟学協会へ話題提供を依頼することが承認された。</p>
		<p>協議事項・報告事項 1.2022 年度事業報告・収支決算報告(案) について 2022 年度事業報告(案)の説明があった。 2021 年度収支決算報告(案)の説明があった。 2.第 94 回(2023 年度)日本農学大会について 2023 年 4 月 5 日（水）に東京大学山上会館で開催することで進めることになった。 3.その他</p>
<p>運営委員会</p>	<p>第 1 回 3 月 14 日 WEB(Zoom)会議</p>	<p>1.今期常任委員の紹介があった。 2.2022 年度第 5 回日本農学会総会の報告がされた。 2022 年度収支計算書について報告があった。 3. 2022 年度(第 93 回) 日本農学大会準備状況 伊藤国際学術センター 伊藤謝恩ホールにて、会場参加 148 名、オンライン配信のハイブリッド方式で開催することが報告された。 4.2022 年度シンポジウムについて 2022 年度日本農学会シンポジウムの開催と内容について説明があった。 5.2023 年度シンポジウムテーマ募集について今後テーマの募集をおこなうとの報告があった。 6.その他 総会日程 2023 年度（第 6 回）総会 2023 年 2 月 11 日（土） 運営委員会 9 月 7 日（水）15：00～ 12 月 7 日（水）15：00～とする。理事会、企画委員会は上記日程にあわせる。</p>

<p>第2回 9月7日 WEB(Zoom)会議</p>	<p>1.2022年度第1回日本農学会運営委員会議事録の承認された。</p> <p>2.2022年度(第93回)日本農学大会の報告 オンラインで配信のハイブリッドで開催。会場参加87名(関係者含む)、オンライン登録者:227名、視聴者:275名の参加があったことが報告された。</p> <p>3.2022年度日本農学会シンポジウムの準備状況について 9月7日現在申込者数227数名、会場参加34名、オンライン参加193名となっている。また、関係者、各学協会内への周知のお願いがあった。</p> <p>4.2023年度日本農学賞受賞候補者の推薦 および(一社)日本農学会総会について 推薦締切が11月30日(水)となる。また総会・選考会は2023年2月11日(土)に開催することが報告された。開催方法についてはコロナ感染症の状況によって決定していくことが説明された。</p> <p>5.2023年シンポジウムテーマについて 学協会から提案されテーマを中から日本土壌肥料学会から提出された「大変動時代の農学 Part2」を基本に、少し先を見据え、異分野融合なども入れた内容を考え、学協会には改めて話題提供をお願いすることになる旨説明があった。</p> <p>6.2023年度常任委員担当学会について 2023年度の常任委員担当学協会が確認された。</p> <p>7.その他 1) 学術の中長期研究戦略の公募について 6月30日付けで学術会議からだされた学術の中長期研究戦略の公募内容について説明があった。今後20~30年頃までの先を見通した「グランドビジョン」となるので、農学関係として積極的に提案してほしい旨お願いがあった。</p>
---------------------------------	---

	<p>第3回 12月7日 WEB(Zoom)会議</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2022年度第2回日本農学会運営委員会議事録(案)が承認された。 2. 2022年度事業報告(案) 資料に基づき説明があった。 3. 2022年度収支決算報告(案) 資料に基づき説明があった。 4. 2023年度事業計画(案) 資料に基づき、日本農学大会、シンポジウム等の説明があった。 (1) シンポジウムテーマ・話題提供募集について タイトルは「激動する社会と農学」(仮題)とすることが理事会で決定され、今後、話題提供を加盟学協会へ依頼することになった旨報告があった。 5. 2023年度収支予算計画(案) 資料に基づき説明があった 6. 2023年度社員総会および日本農学賞選考会について 昨年同様オンラインで開催することになった旨報告があった。 7. 日本農学会定款変更(案)・定款規則変更(案)について 資料に基づき説明があった。山内運営委員(日本畜産学会)より、定款を変更するのであれば、定款第17条について「総正会員」「正会員」の表記にについて簡略化をすることを考えてはどうかとの意見がだされた。今後、理事会で検討して、総会に諮ることとなった。 8. 2023年度会員(学協会代表者)・運営委員・常任委員について 資料に基づき説明があった。 9. 常任委員割当て表(2023年度担当学協会) 2023年度は今年度の引き続き、日本熱帯農業学会、日本農業気象学会、日本農業経営学会の3学会と新たに、日本造園学会、日本水産学会、日本農芸化学会の3学会が加わることが報告された。 10. 2023年度日本農学賞受賞候補業績の推薦学会発表順 厳正な抽選により以下のように推薦学会の発表順が決定された。 1. 日本農薬学会、2. (一社)日本植物病理学会、3. (公社)日本水産学会、4. (一社)日本土壌肥料学会/日本土壌微生物学会、5. (一社)農業情報学会、6. (一社)農業食料工学会、7. ((公社)日本農芸化学会 8. (一社)日本木材学会、9. (公社)日本畜産学会、10. (一社)日本応用動物昆虫学会、11. (公社)農業農村工学会、12. 日本農業気象学会 9. その他
<p>企画委員会</p>	<p>第1回 5月10日 WEB(Zoom)会議</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 企画委員会立ち上げ 企画委員の自己紹介を行った。 2. 講演タイトル・内容・講演者について 日本土壌肥料学会の白戸先生には、もう少し幅広くカーボンニュートラル全体について基調講演をお願いする。テーマの方向性や講演内容、シンポジウムタイトル等について議論した。 3. 開催方法(プログラム案)について 10月1日(土)、10時～ 対面とオンラインのハイブリッド開催が決定された。

		<p>4.今後のスケジュール 講演依頼、講演タイトル、ポスター等スケジュールに沿ってすすめることが承認された。</p> <p>3.その他 総合討論の司会は副会長が行うことで検討することになった。</p>
	<p>第2回 9月7日 WEB(Zoom)会議</p>	<p>1. 2022年度シンポジウムに関わる全体スケジュール プログラム沿って説明があった。</p> <p>2. 2022年度シンポジウム・タイムテーブル及び役割分担 タイムテーブルに沿って説明があった。</p> <p>3. 広報活動 ポスターDM 便で発送、ホームページ掲載、農業新聞等掲載。現時点での参加登録数について説明があった。</p> <p>4. 講演要旨の作成について シンポジウム3日前にホームページの掲載し、シンポジウム当日に削除する。冊子版も作成（印刷）し当日会場での販売をする。</p> <p>5. その他 「農業および園芸」の原稿執筆について説明があった。</p>